

福島県知事 内堀雅雄 殿

令和8年 5月 15日

甲状腺がん支援グループあじさいの会
(甲状腺がん患者・家族・支援者の会)
共同代表 牛山 元美
千葉 親子

県民健康調査（甲状腺検査）の継続と充実を求める要望書

福島県におかれましては、東京電力福島第一原発事故後、子どもたちの健康を長期にわたって見守るため、県民健康調査（甲状腺検査）を継続してこられたことに深く敬意を表します。

私たちはこの度、調査の今後に対する強い懸念と切実な思いをもって、本要望書を提出いたします。

一、調査の意義と現状

2011年3月11日の東日本大震災とそれに続く福島第一原発事故は、東日本の広範な地域に放射性物質による汚染をもたらしました。福島県はいち早く「子どもたちの健康を長期に見守る」との方針を掲げ、同年10月より甲状腺超音波検査を開始しました。事故当時18歳以下であった約38万人を対象に、20歳までは2年ごと、その後は5年ごとに検査が実施されており、これは国内外に類を見ない公的な健康見守り事業です。

しかし今、この調査をめぐる、見過ごすことのできない変化が生じています。

二、深刻な懸念

（1）調査の透明性と信頼性への疑問

検査結果を評価する専門部会（検討委員会、甲状腺評価部会）では、放射線被ばくとの関連性を当初から否定する姿勢が際立っています。さらに、分析手法の変更や症例集計のあり方についても、科学的な透明性や公正性に疑問を抱かせる経緯が繰り返し指摘されてきました。

（２）「過剰診断論」による受診抑制への懸念

近年、一部の医師・研究者から「小児甲状腺がんは自然に小さくなるので治療は不要」「検査は過剰診断を生む」「手術は過剰治療だ」という主張が繰り返し発信されています。

こうした言説の影響を受けてか、県の姿勢もいつしか「積極的な受診勧奨」から「検査の不利益（デメリット）を強調する方向」へと変化しているように見えます。

しかし、実際に多くの患者を診てきた臨床の現場からは、まったく異なる声が上がっています。多くの小児甲状腺がんを手術した医師は、「検査間隔があくと、進行した状態で発見される例が増えている」「20歳を超えてからこそ継続した検査が必要だ」と繰り返し警鐘を鳴らしています。

私たちは、この現場の声を軽んじてはならないと強く考えます。

三、チェルノブイリの教訓——歴史を繰り返してはならない

1986年のチェルノブイリ原発事故の経験は、私たちに深刻な教訓を与えています。

事故当初、当局は「被ばく量は少なく、健康影響は生じない」という見解を繰り返しました。ところがその後、小児甲状腺がんの急増が明らかになり、事故から約10年経って、ようやく放射線との因果関係が国際的に認められたのです。早期対応が遅れた結果、進行した状態でがんを発見される子どもたちが後を絶ちませんでした。しかも、若い年齢で原発事故に遭遇した世代は、その後の成長過程で、ほかの世代よりも多くの甲状腺がんを発症していることが、この40年間のデータからわかっています。

福島はチェルノブイリの轍を踏んではならない。

この教訓を生かすことこそが、私たちに課せられた責任です。

四、私たちの訴え

福島県民健康調査は、「不安をあおるため」のものでも、「被ばくの影響を認めるため」のものでもありません。事故を経験した子どもたちの健康を長期にわたって見守り、必要な人を早期に発見・治療につなげるための、かけがえのない公的事業です。

今この瞬間も、かつて事故を経験した子どもや若者たちは年を重ね、本来甲状腺がんが増加する世代となっていており、検査を必要とする世代はむしろ広がり続けています。

今、必要なのは「調べることをやめる」ことではありません。

科学的根拠に基づき、社会的信頼を確保しながら、「調べ続け、支え続けること」です。

よって、私たちは福島県に対し、以下の事項を強く要望します。

要望事項

1. 甲状腺検査を長期にわたり継続すること
 - ・・・事故を経験した当時、特に幼少であった世代の健康を、引き続き責任をもって見守ること。
2. 希望するすべての県民が安心して受診できる体制を維持すること
 - ・・・検査へのアクセスを保障し、受診を萎縮させるような情報発信を見直すこと。
3. 早期発見・早期治療につながる医療体制を維持・充実すること
 - ・・・発見されたがんに対して、迅速かつ適切な医療が提供される環境を整えること。
4. 過剰診断・過剰治療を避けるための透明性ある議論と適切な医療指針に基づき運営すること
 - ・・・臨床現場の声を尊重し、科学的な議論を公正に行うこと。
5. 調査データの分析・評価過程を県民に公開し、透明性を確保すること
 - ・・・検査の信頼性を守るため、情報公開と第三者による検証の仕組みを設けること。

以上